

2009年9月26日

立正大学経済学部・ユーラシア研究所共催シンポジウム「日本の中央アジア戦略」報告資料

中央アジアとEU

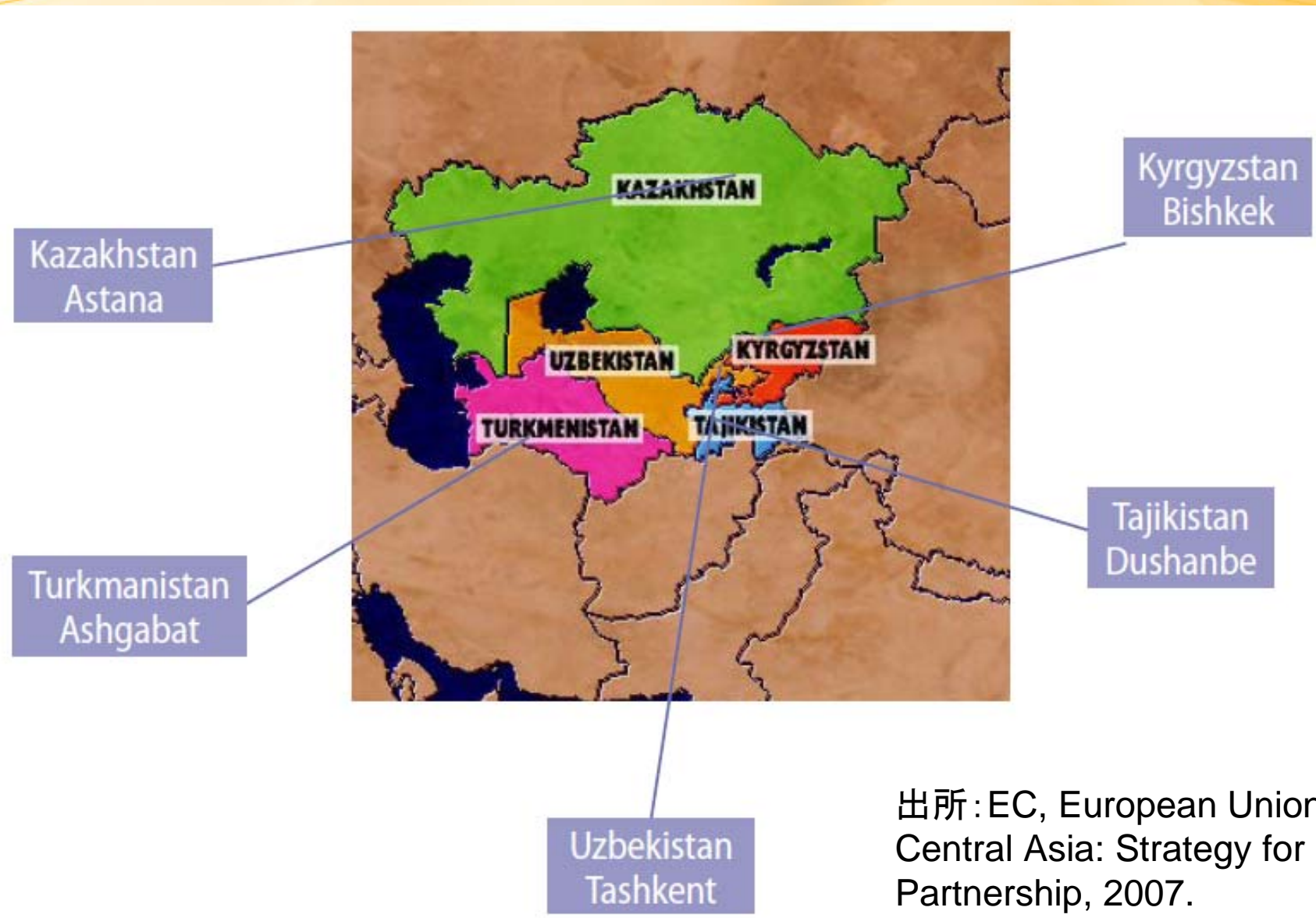
— 欧州近隣諸国政策を超えて —

蓮見 雄

立正大学経済学部教授
ユーラシア研究所事務局長

中央アジアとE.U

— 欧州近隣諸国政策を超えて —

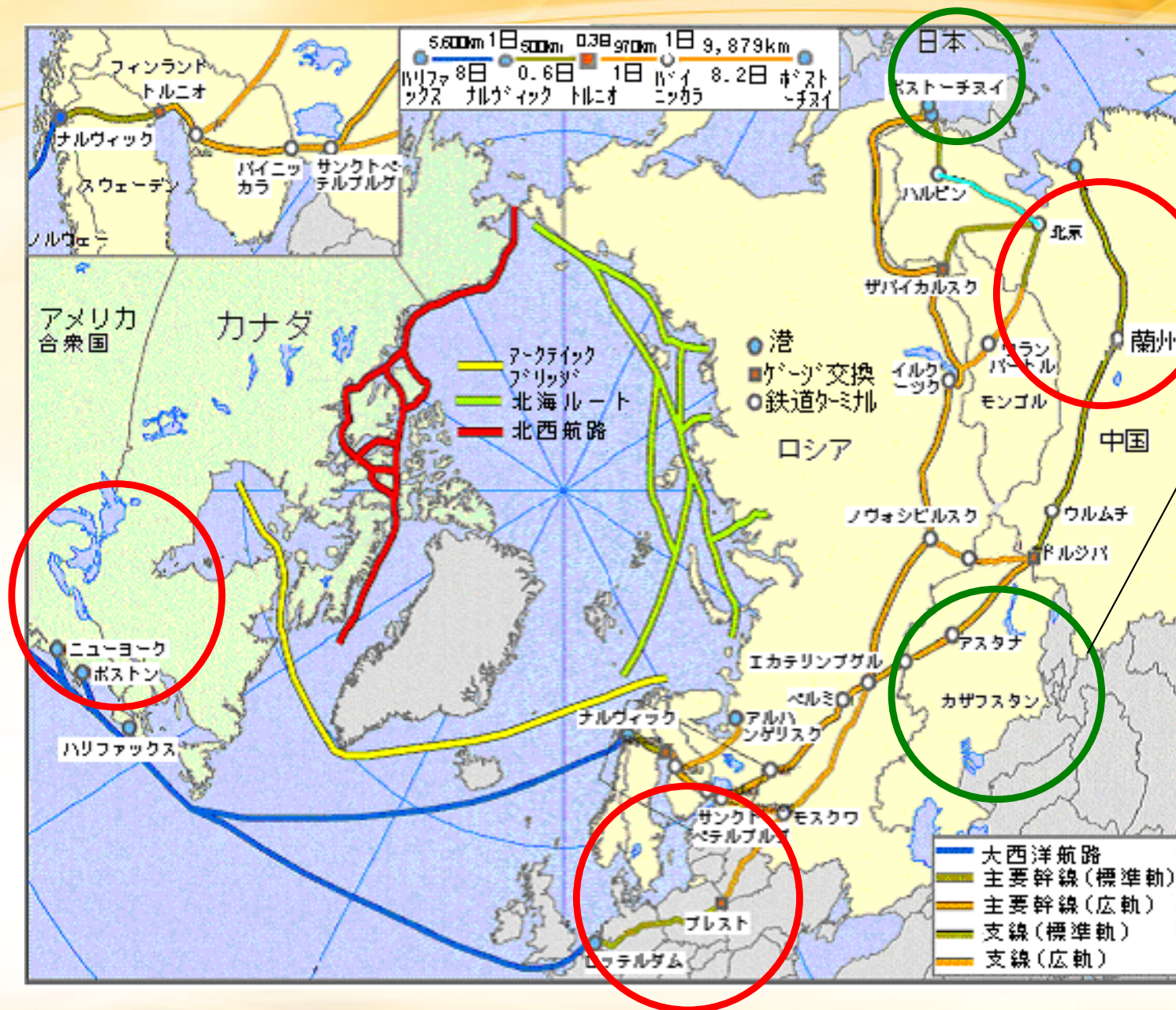


出所: EC, European Union and Central Asia: Strategy for a New Partnership, 2007.

1. 「地政学的な権力の世界市場」と中央アジア

- 一国による独占から公開市場へ：アメリカナイズ、ヨーロッパナイズ、中国ナイズ
- 「地政学的な権力の世界市場では、ある超大国の政策が正しいかどうかは、その政策が**実際に効果があるかどうか**によって判断されねばならず、またその効果は他のほかの超大国の政策との**比較によって証明**されなければならない。」
(パラグ・カンナ著『「三つの帝国」の時代』講談社、2009年、pp. 20-21)
- では、グローバル・パートナーとしての**規範のパワー** (normative power)を自認するEUの中央アジア政策の「正しさ」は実証しうるのか？

N.E.W.* 構想と3つの帝国、中央アジアの配置

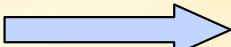



中央アジア

出所:
http://people.hofstra.edu/geotrans/eng/ch5en/conc5en/img/Map_NEW_Corridor.pdf

蓮見雄編『拡大するEUとバルト経済圏の胎動』昭和堂、2009年、334頁。

2. 拡大するEUと欧州近隣諸国政策 (ENP)

- 2004年の拡大  東と南の隣国との関係強化
- 2007年の拡大  黒海地域との関係強化

しかし、

「EUの最も成功した外交手段はEU加盟の約束であった。…これを続けることはできない。…我々が拡大EUの中で作り出してきた安定、安全保障、繁栄を輸出する方法を見つけ出さなければならない。」(パッテン対外政策担当欧州委員、2003年)

- ワイダー・ヨーロッパ構想
- ワイダー・ヨーロッパから欧州近隣諸国政策へ
- ENP=WNIS + バルセロナ + **南コーカサス** — ロシア
- ロシア (4つの共通空間: 経済、自由・安全・司法、対外的安全保障、研究・教育)
- ENP + 欧州安全保障戦略 (ESS、ソラナ・ペーパー)
= ソフトとハードを組み合わせた対外政策

出所: 蓮見雄「欧州近隣諸国政策とは何か」『慶應法学』第2号、2007年

蓮見雄「欧州近隣諸国政策における「曖昧性」の役割」『現代の理論』第16号、2008年

欧州近隣諸国政策対象地域

★ WNIS

★ 地中海

★ 南コーカサス

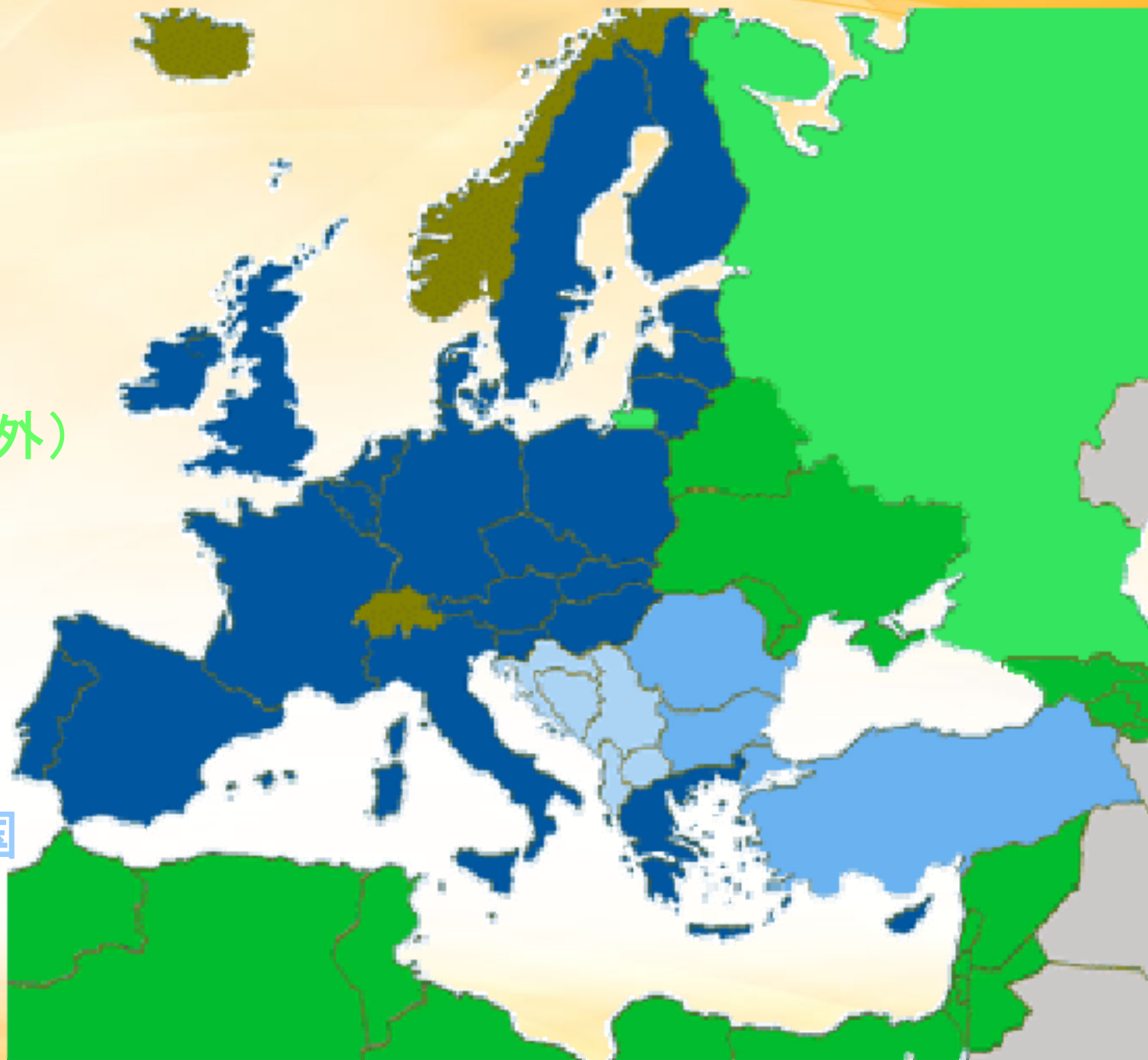
★ ロシア(ENP適用外)

★ EU加盟国

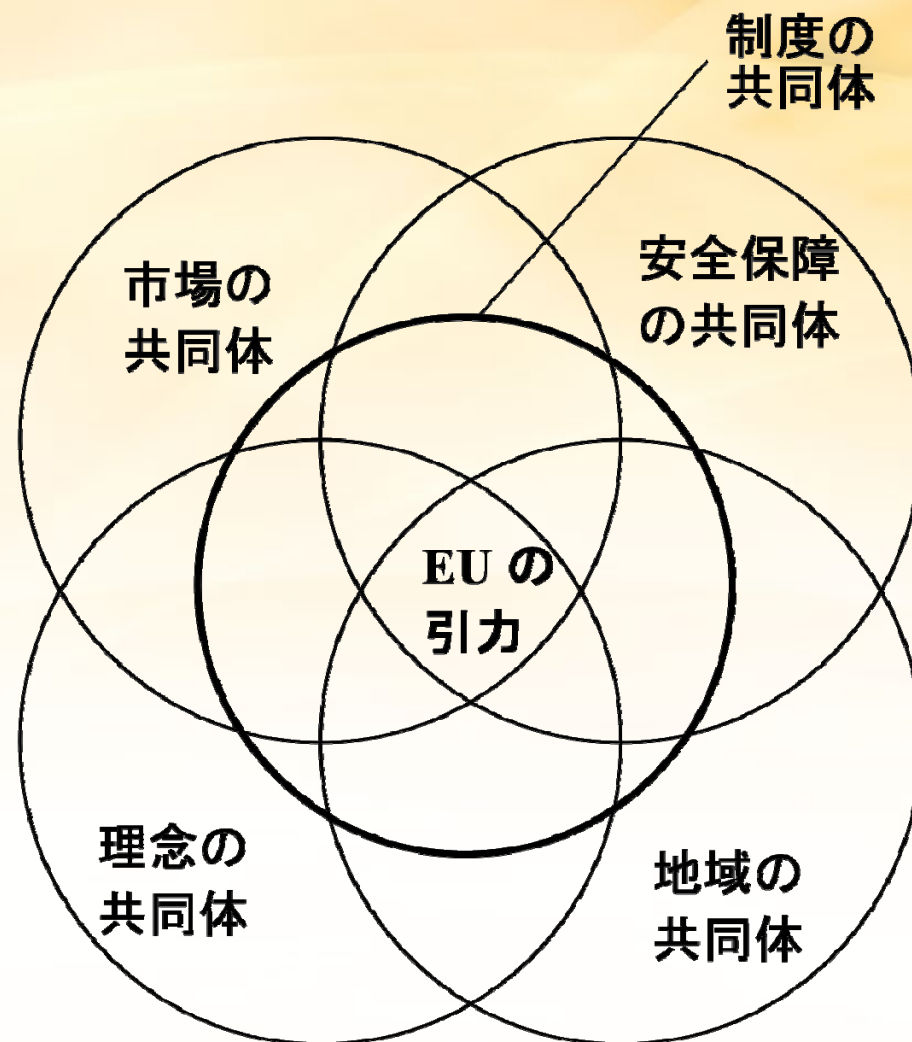
★ 加盟候補国

★ 潜在的加盟候補国

★ 加盟条件を満たしているが加盟しない国



EUの多元的開放型 リージョナル・ガバナンス



出所: 蓮見雄編『拡大する
EUとバルト経済圏の胎動』
2009年、昭和堂、9頁。

欧州近隣諸国：「プロセス」としてのEUが、 「アクター」としてのEUに出会うアリーナ

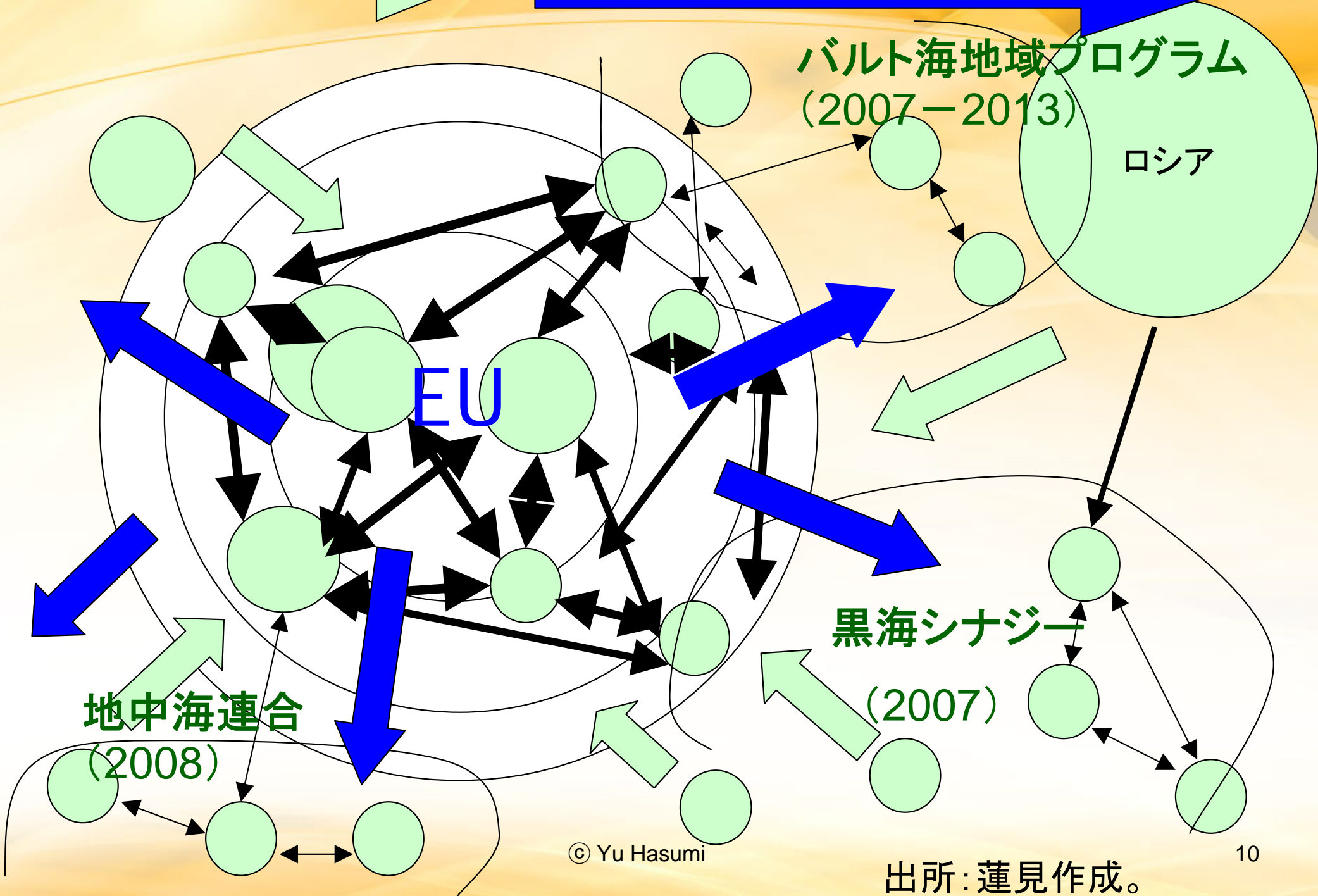
- 補完性原理に基づく「制度の共同体」が作り出す規範を
- 国家が一定の選択の範囲で、自発的に受け入れ、
- 「市場の共同体」の利益を分かち合い、
- 脱セキュリティゼーションし「安全保障の共同体」となる。
- 近隣諸国を「市場の共同体」ばかりでなく、「地域の共同体」を通じて「制度の共同体」に部分的に参加させながら、
- 「理念の共同体」を普遍化し、多元的開放型ガバナンス・モデルを受け入れていく社会条件を醸成する。
- EUは、「内」と「外」のボーダーを崩しながら、新しいガバナンスを構築していくシステムに転換する可能性をもつ。

欧州近隣諸国政策の進化

- 「共有」+「差異化」+「地域的プロセス」
- 地域的プロセス
 - バルト海地域プログラム(2007-2013年)
 - 黒海シナジー(2007年)
 - 地中海連合(2008年)
- イースタン・パートナーシップ(2008年12月)
 - ENPを超えて? EU加盟を前提として?
 - 「より野心的なパートナーシップ」
 - 対象国: ウクライナ、モルドヴァ、アゼルバイジャン、グルジア、ベラルーシ
 - 連合協定、市場アクセス、エネルギー安全保障

石油・天然ガス、移民のフロー

価値の共有をともなうネオリベラル・イデオロギー



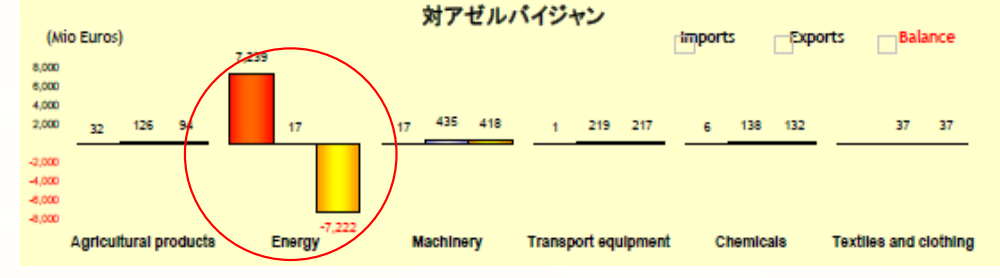
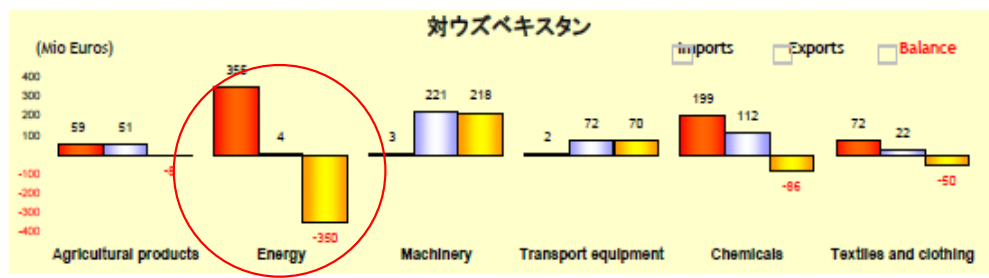
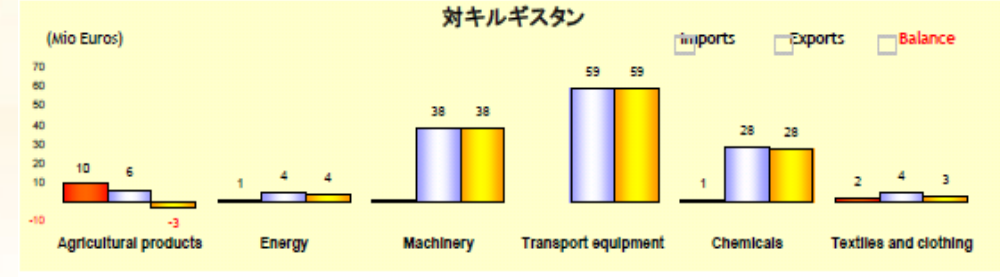
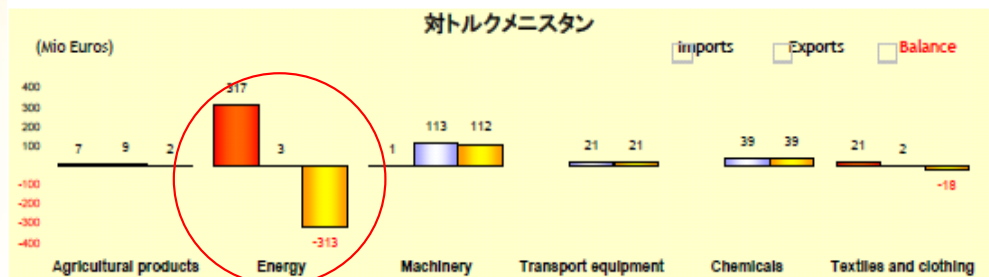
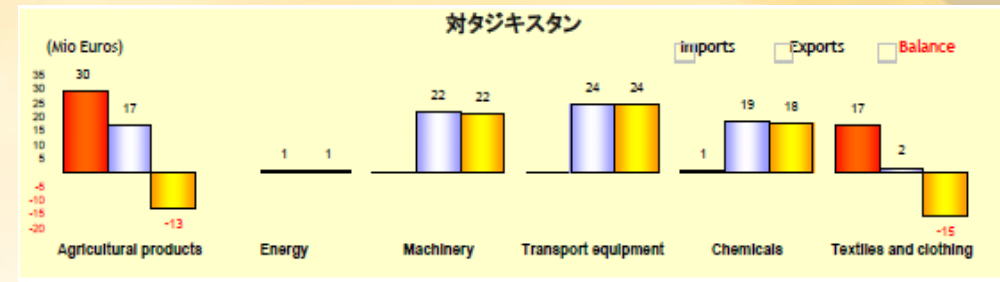
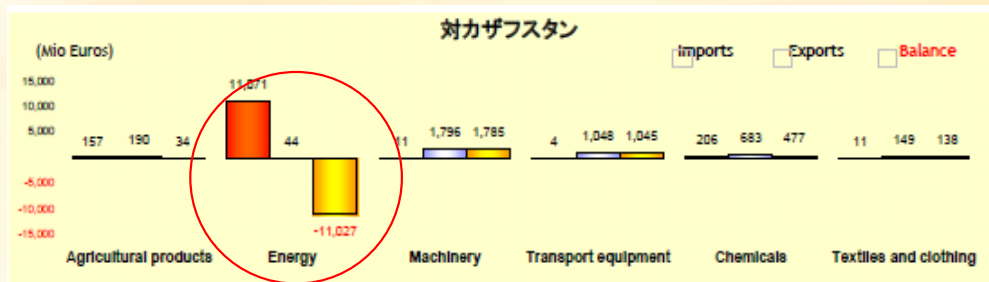
3. EUと中央アジアの経済関係の非対称性

順位	国	100万 ユーロ	%
36	カザフスタン	6,046	0.5
93	ウズベキスタン	774	0.1
122	トルクメニスタン	360	0.0
151	タジキスタン	108	0.0
133	キルギスタン	226	0.0

出所: Eurostat.

	貿易相手	%
カザフスタン	EU25	35
	ロシア	23
	中国	19
ウズベキスタン	ロシア	25
	EU25	24
	中国	10
トルクメニスタン	ウクライナ	36
	イラン	14
	EU25	9
タジキスタン	ロシア	18
	中国	15
	EU25	14
キルギスタン	中国	53
	ロシア	17
	EU25	5

EU27の対中央アジア貿易構造 (2007年)



出所: Eurostat.

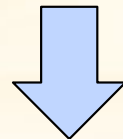
EUと中央アジア貿易の概要

- キルギス以外はWTO未加盟
- EUは中央アジアの外国貿易の約3分の1(だが、中国、ロシアも大きい)
- エネルギーが圧倒的(カザフスタンからの輸入の80%、トルクメニスタン—90%)
- EU貿易における中央アジアのシェアはわずか。
- カザフスタンとの貿易が圧倒的に多い。

4. EUの中央アジア戦略強化

EUの立場:

「欧州近隣諸国の枠組での東の近隣諸国に対するEUの強力な関与」



「政治協力においても、経済発展においても、ヨーロッパと中央アジアを互いに近づけるであろう。」

出所: EC, European Union and Central Asia: Strategy for a New Partnership, 2007.

EUの対中央アジア支援

- 2006年まではTACIS
- 2007年からは、国連ミレニアム開発目標に対応したDCI (Development Cooperation Instrument)
- 支援予算倍増7億1900万ユーロ
- 3つの柱：
 - 中央アジア地域協力・近隣諸国関係 (予算の30-35%)
 - 貧困削減・生活向上 (40-45%)
 - グッド・ガバナンス・経済改革 (20-25%)
- 二国間支援と地域支援の併用
- 協力分野：ネットワーク・市場の統合、環境、教育・科学

出所： EC, Regional Strategy Paper for Assistance to Central Asia for the period 2007-2013.

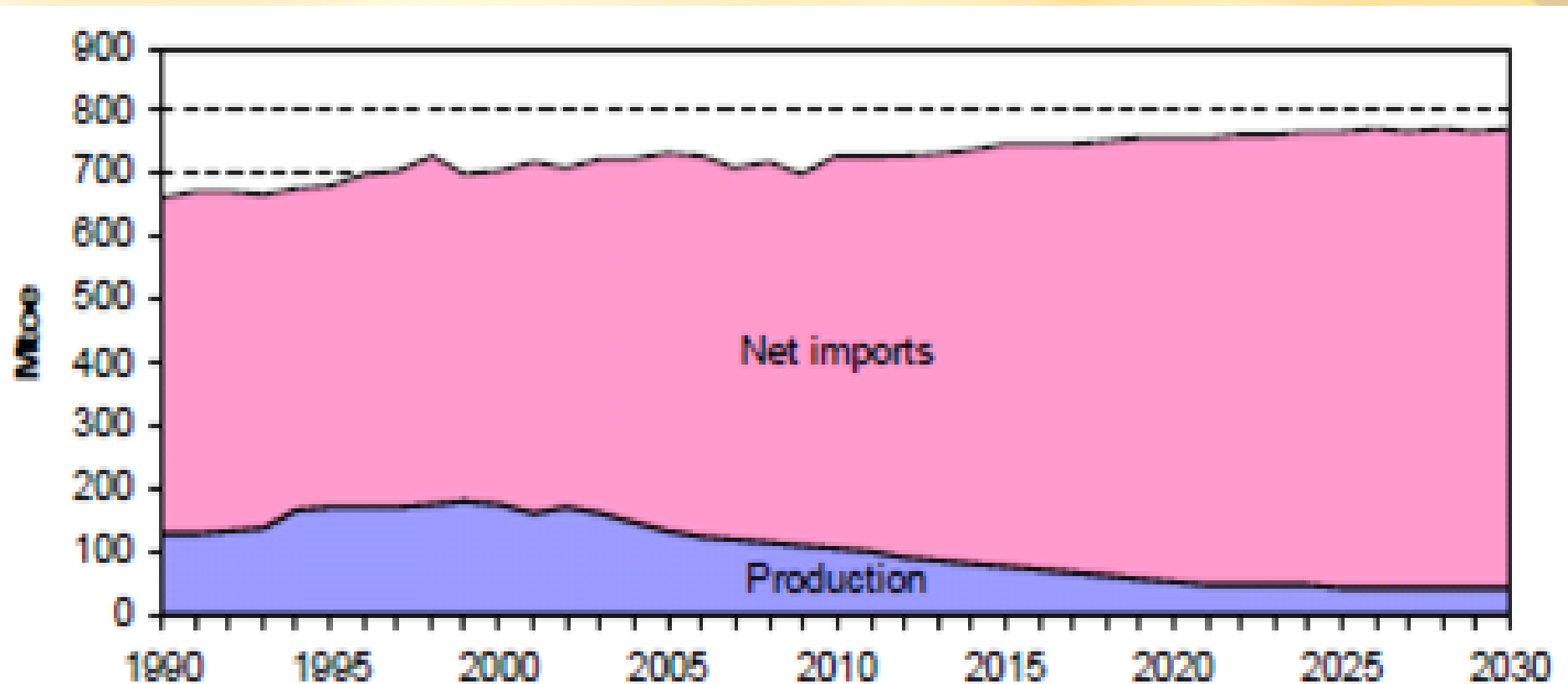
二国間協力と地域協力

- **二国間協力**: 人権、経済的多様性、エネルギー、教育など
- **地域協力**: 組織犯罪、人身・麻薬・武器の密輸、テロ、異文化交流、エネルギー、環境汚染、水管理、移民、国境管理、交通インフラ
- その他、様々な国際金融機関、国際協力機関との協力

5. EUエネルギー安全保障政策と中央アジア

- 中央アジアは、EUの多角化戦略の答えではない。
- LNG、ノルド、サウス、効率改善、備蓄、ガス市場の形成による諸方策の一つ。
- INOGATE
- トルコ、アゼルバイジャンの下流問題
- トルクメニスタン・アゼルバイジャンの領土紛争
- トルクメニスタン
- EU、加盟国、エネルギー企業の連携

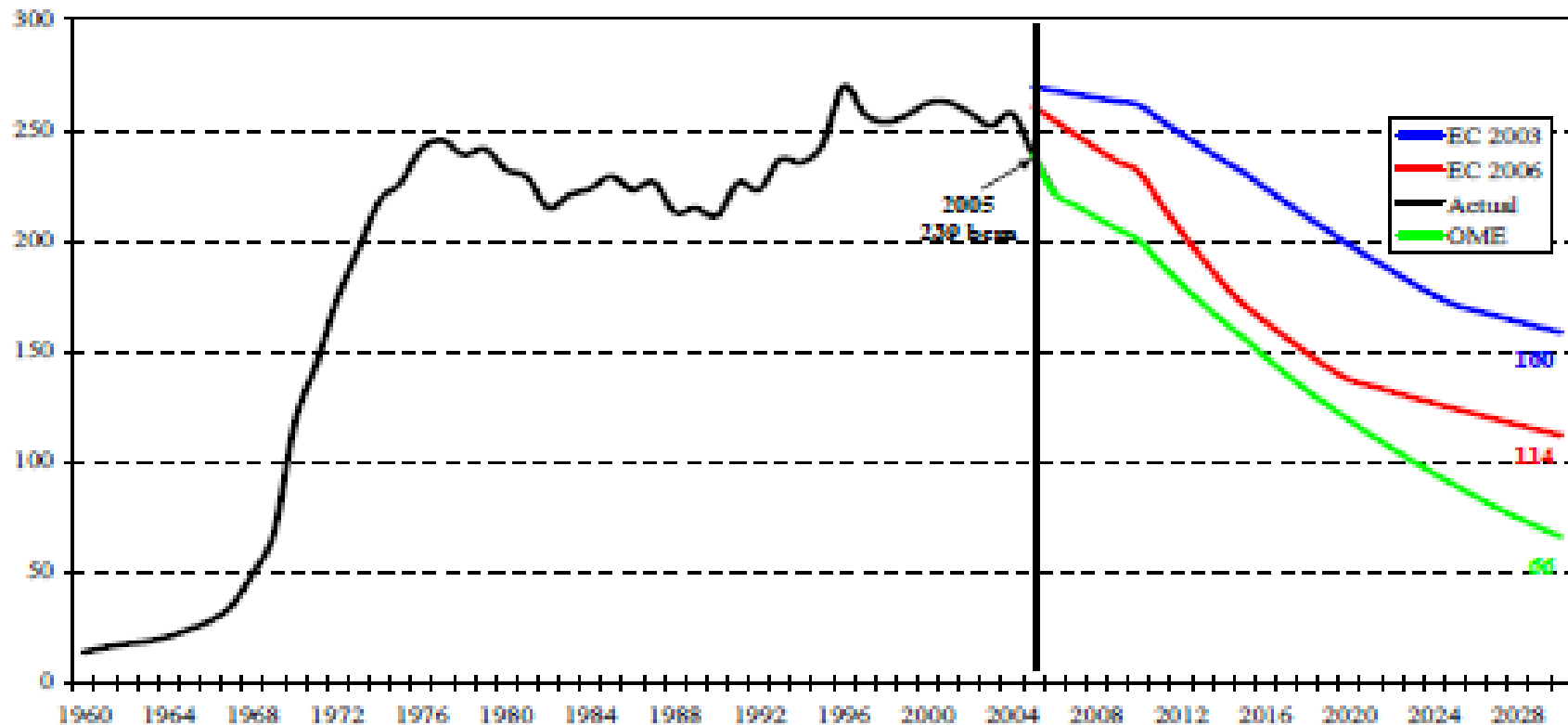
EU域内石油生産の減少



出所: A. Checchi, A. Behrens, C. Egenhofer, Long-Term Energy Security Risks for Europe: A Sector-Specific Approach, *CEPS Working Document*, No. 309/January 2009, p. 7.

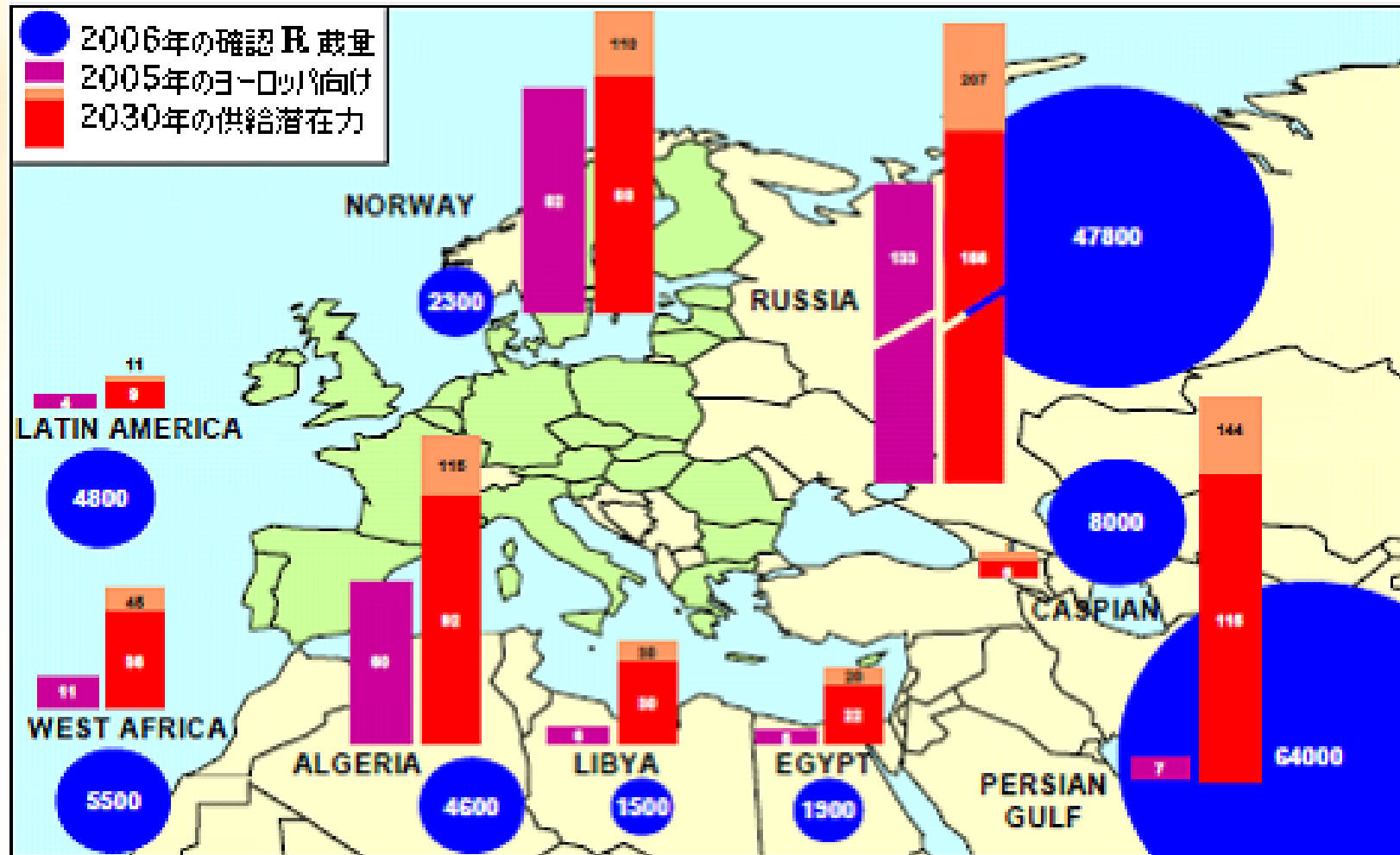
EU域内ガス生産の低下

Figure 1. EU gas production outlooks to 2030 (in bcm)



出所: A. Checchi, A. Behrens, C. Egenhofer, Long-Term Energy Security Risks for Europe: A Sector-Specific Approach, *CEPS Working Document*, No. 309/ January 2009, p. 15.

ガスの供給ポテンシャル



Notes: Uncertainty range for 2030 is +/- 20%.

出所: A. Checchi, A. Behrens, C. Egenhofer, Long-Term Energy Security Risks for Europe: A Sector-Specific Approach, CEPS Working Document, No. 309/ January 2009, p. 16.

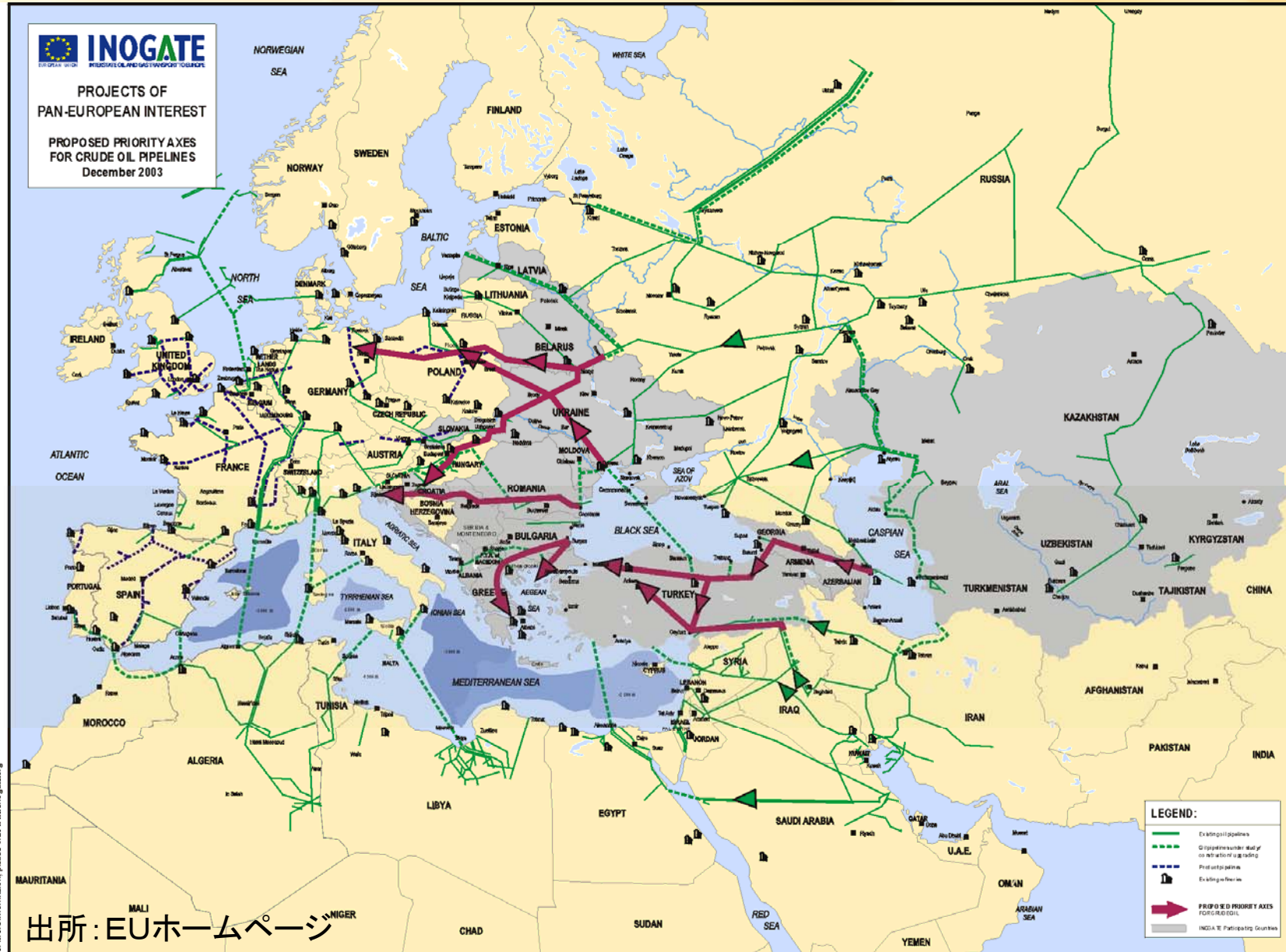
INOGATE: Interstate Oil and Gas Transport to Europe

- 1997年: Interstate Oil and Gas Pipeline Management
- 2004年11月: バクー・イニシアチブ
- 2006年11月: アスタナ・エネルギー相会議宣言
- EUと黒海、カスピ海沿岸諸国、及びその近隣諸国 (アルメニア、アゼルバイジャン、ベラルーシ、グルジア、カザフスタン、キルギスタン、ロシア(オブザーバー)、タジキスタン、トルコ、トルクメニスタン、ウクライナ、ウズベキスタン)

INOGATE

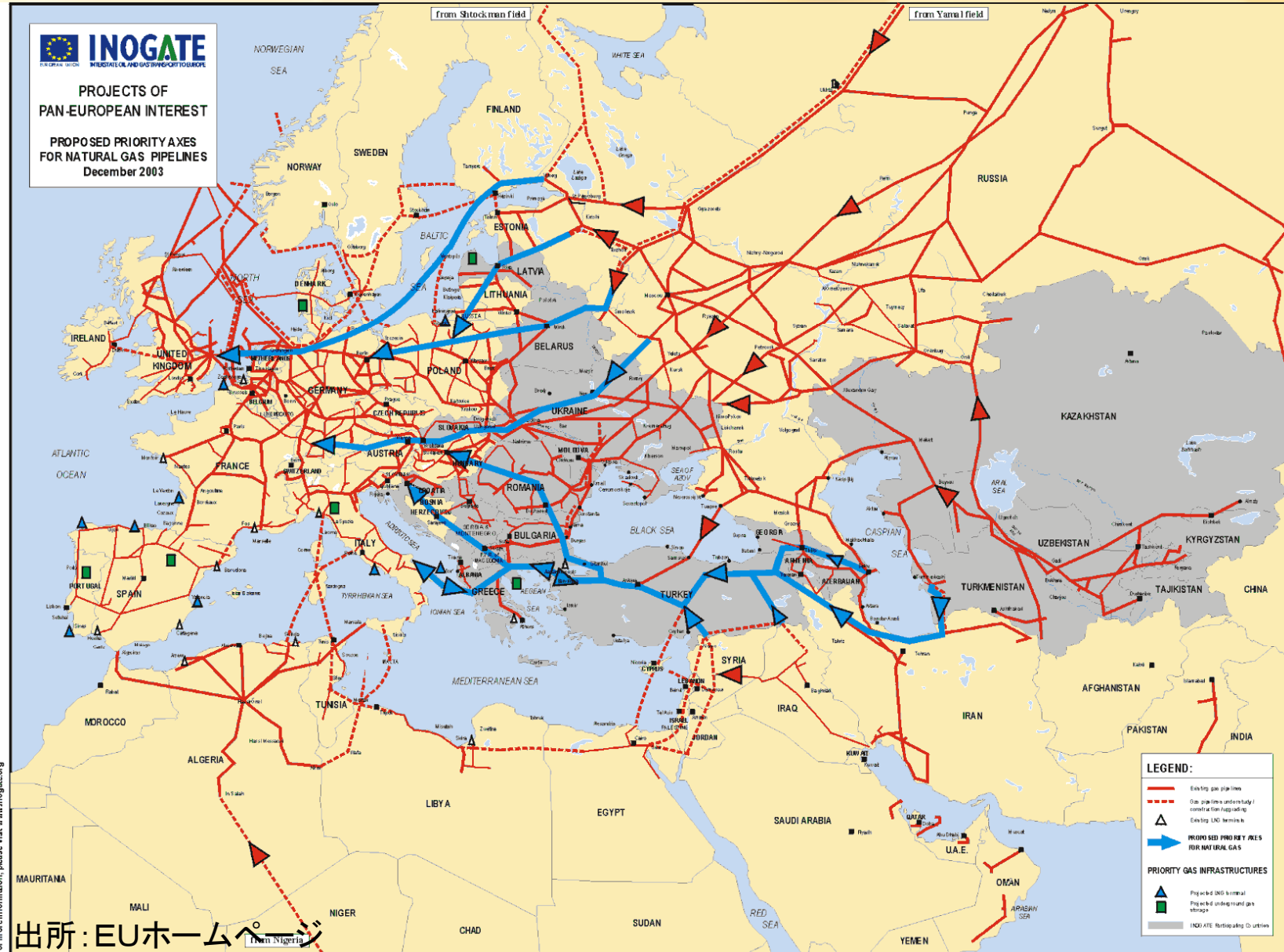
- 目的:
 - EU域内エネルギー市場の原則を基礎としたエネルギー市場の収斂
 - エネルギー安全保障の強化
 - 持続可能なエネルギー開発
 - エネルギー開発への投資誘致
- 活動: 情報交換、技術支援 (Twinning, TAIEXを含む)
- 資金: 2006年までTACIS、2007年からENPI (European Neighbourhood and Partnership Instrument)。中央アジアは公式には含まれないが、INOGATE参加諸国との事業の継続の利益を得る。

INOGATE 石油パイプライン



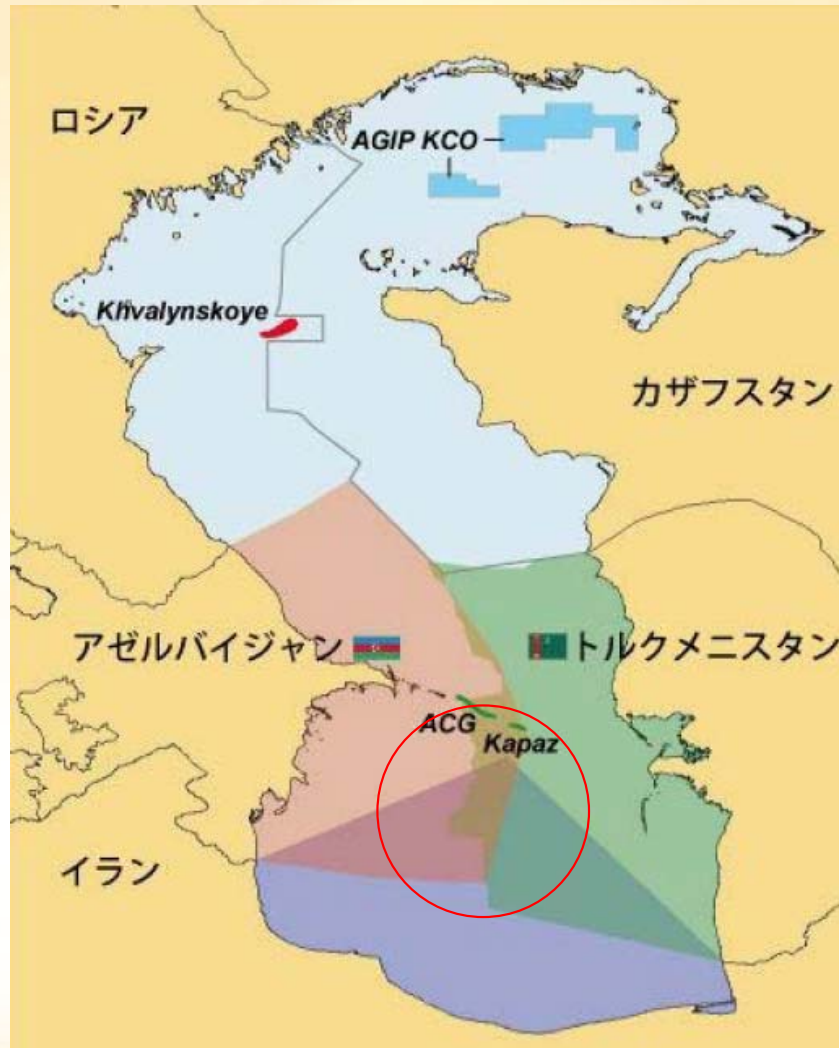
This publication is produced with the assistance of the European Union. The contents of this publication are the sole responsibility of the contractor, EIR / HII / G&Pnt, and can in no way be taken to reflect the views of the European Union.

INOGATEガス・パイプライン



This publication is produced with the assistance of the European Union. The contents of this publication are the sole responsibility of the contractor, EIR/Hill/G&F, and can in no way be taken to reflect the views of the European Union.

トルクメニスタン・アゼルバイジャン の領有権問題とカスピ海開発

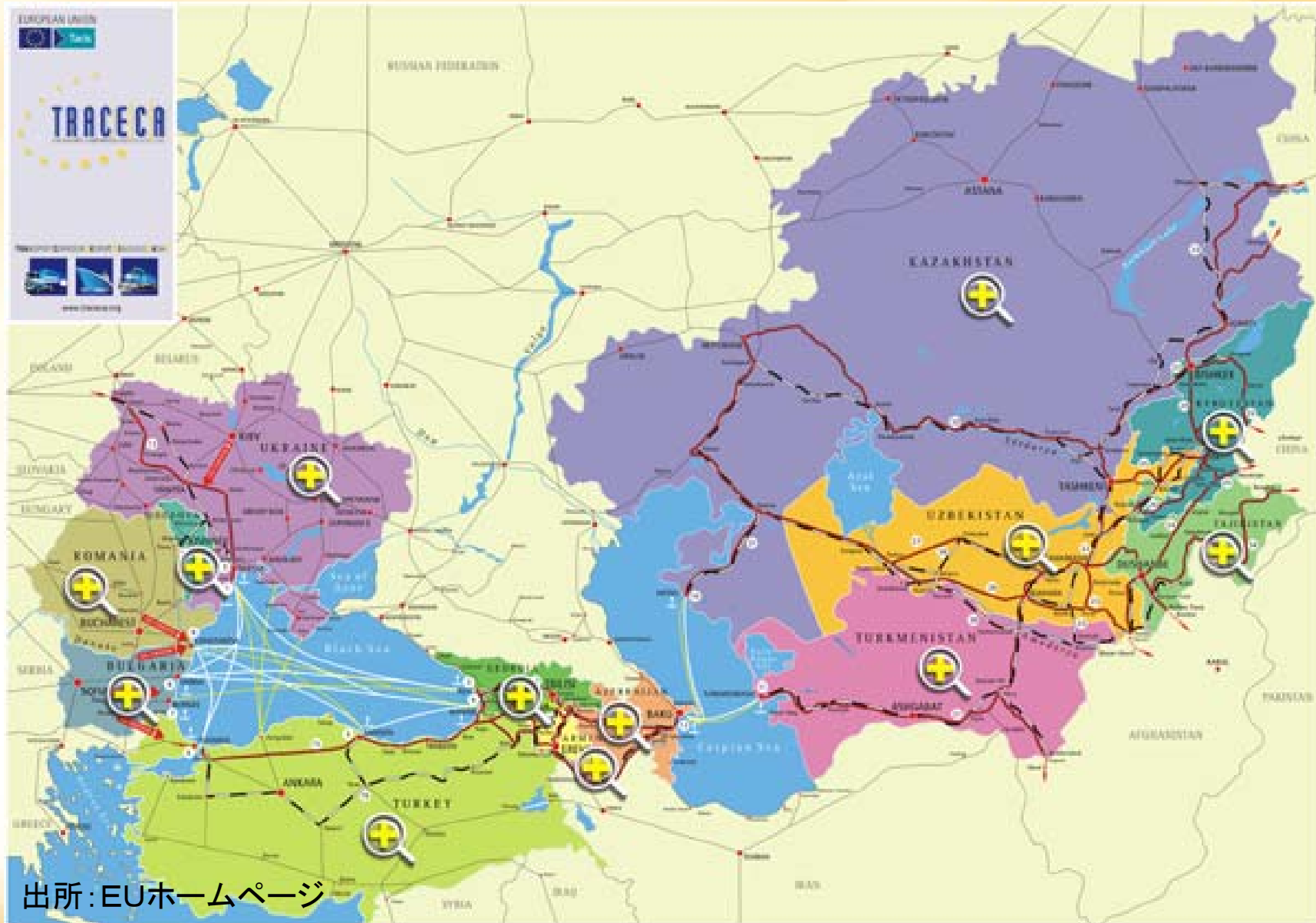


出所：
古幡哲也「トルクメニスタン/アゼルバイジャン：カスピ海Kapaz油田の領有権問題について」2007/9/13 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 に加筆。

TRACECA

- EU Tacis-TRACECA 1993年、中央アジア・コーカサスの交通をTENs (Trans-European Networks) に統合する。
- 参加国: 13カ国 (アルメニア、アゼルバイジャン、ブルガリア、グルジア、カザフスタン、キルギスタン、モルドヴァ、ルーマニア、タジキスタン、トルクメニスタン、トルコ、ウクライナ、ウズベキスタン)
- 資金: DCとENPI

TRACECA: Transport Corridor Europe-Caucasus-Asia



中央アジア・カスピ海周辺国の の主要油ガス田と堆積盆地



出所: 古幡哲也「カザフスタン、アゼルバイジャン、トルクメニスタンの石油・ガスの探鉱・開発の現状」2009、Vol.43, No.1, p. 40.

中央アジアの石油・ガス

	確認埋蔵量(2008年末)			生産量(2008年)	消費量(2008年)
	10億t	%	可採年数	100万t	
アゼルバイジャン	1.0	0.6	20.9	44.7	3.3
カザフスタン	5.3	3.2	70.0	72.0	10.9
トルクメニスタン	0.1	—	8.0	10.2	5.5
ウズベキスタン	0.1	—	14.6	4.8	5.5
	天然ガス				
	確認埋蔵量(2008年末)			生産量(2008年)	消費量(2008年)
	兆m3	%	可採年数	10億m3	
アゼルバイジャン	1.20	0.6	81.3	14.7	9.3
カザフスタン	1.82	1.0	60.3	30.2	20.6
トルクメニスタン	7.94	4.3	—	66.1	19.0
ウズベキスタン	1.58	0.9	25.4	62.2	48.7
出所: BP Statistical Review of World Energy 2009.					

ビジネス vs. 規範のパワー

- 人権問題を抱えるトルクメニスタンと商業ベースで取引しつつ、規範外交を保持できるか。
- ロシア、中国、米国、EUの競合とEUの優位性？
- 中央アジアのオーナーシップ？
- EUは、グローバル・アクターとしての政策の「正しさ」を証明できるか？

補論：中央アジア水資源

Country	River basin				Aral Sea basin		River basin							
	Syrdarya		Amudarya				Chu		Talas		Tarim		Karkyra	
	km ²	%	km ²	%	km ²	%	km ²	%	km ²	%	km ²	%	km ²	%
Kazakhstan	4.5	12	-	-	4.5	4	0.11	3	0.11	6	-	-	0.23	38
Kyrgyzstan	27.4	74	1.9	2	29.3	25	3.84	97	1.72	94	6.52	>50	0.37	62
Tajikistan	1.1	3	62.9	80	64	56	-	-	-	-	-	-	-	-
Turkmenistan and Iran	-	-	2.78	4	2.78	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Uzbekistan	4.14	11	4.7	6	8.84	8	-	-	-	-	-	-	-	-
Afghanistan	-	-	6.18	8	6.18	5	-	-	-	-	-	-	-	-
Total	37.14	100	78.46	100	115.6	100	3.95	100	1.83	100			0.6	100

出所：S. Juraev, Energy Emergency in Kyrgyzstan: Causes and Consequences, *EUCAM Policy brief*, No. 5, Feb. 2009, p. 3.

電力・水・食料問題

- キルギスタン、タジキスタンは、水力発電を十分開発できるか？
- 下流の3国、とくにウズベキスタンとトルクメニスタンの農業に打撃を与える。



Source: UN Environmental Programme.

出所：
M. Emerson ed., *Synergies vs. Spheres of Influence in the Pan-European Space*, CEPS, 2009, p. 54.